

## 第2期近江八幡市教育大綱(素案)に寄せられたご意見と市の考え方

受付番号	項目番号	ページ	行目	寄せられたご意見	回答	対応方針
1	1	5	6	基本理念の解説文中に「子どもが自ら考え、判断し問題を解決する『生き抜く力』を育み…」とある。「生き抜く力」が学習指導要領などで使われる「生きる力」と同義の表現であるとするならば、その前の文言は「生き抜く(生きる)力」の一側面のみを表したものとなっており、説明として不十分。 「豊かな心と健やかな体、確かな学力を意味する、『 <u>生き抜く力</u> 』を育成し、…」のような文章に修正してはどうか。	本市の教育大綱における「生き抜く力」という表現は、「生きる力」をベースとし、自分にまけない心をもって変化する社会に対応していく力をより強調した表現になっております。 ご意見いただいた箇所については、ご指摘の趣旨を踏まえ、「生き抜く力」の含意を十分に説明した表現に修正します。	対応 →子どもの豊かな心と健やかな体、確かな学力を育み、自らが考え判断し、多様な人々と協働して、様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓く「 <u>生き抜く力</u> 」を育てます。
	2	7	12	目標①の解説文について、「豊かな心」「健やかな体」については1段落目で説明されているが、「確かな学力」についての説明がない。一方で2段落目において「生き抜く力」の説明があるが、内容は「確かな学力」について書かれたものと読み取れる。「 <u>生き抜く力</u> 」を「 <u>確かな学力</u> 」に置き換えてはどうか。	ご指摘を受けて検討した結果、「確かな学力」とした方が適切と判断しましたので、置き換えた上で文章全体も併せて修正します。	対応 →また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自らが課題を見つけ、考え判断し、解決していく「 <u>確かな学力</u> 」を育みます。
	3	7	23	目標④の解説文中の「家庭・地域の力を…」となっているが、目標では「 <u>家庭・地域の力を…</u> 」となっている。標記を統一するべき。	市として中点「・」及び読点「、」の使用法に明確な基準は定めておりませんが、文部科学省の基準に倣い、名詞の並列には中点「・」を使用することで統一します。	対応 →家庭・地域の力を… (他の文章においても「・」の使い方を修正)
	4	7	27	目標⑤の解説文に「…まちをめざします」とあるが、目標の書き方に合わせて「… <u>まちづくり</u> をめざします」と統一するべき。	ご意見の趣旨を踏まえ検討した結果、「まちづくり」は過程であって目標ではないと考え、右のとおり目標⑤を修正します。	対応 →目標⑤生涯にわたり学び続ける <u>まちづくり</u> をめざします。
	5	7		「めざす(目指す)」や「育む(はぐくむ)」のように、漢字で書かれている箇所とひらがなで書かれている箇所の線引きの基準がわからないので明確にされたい。	字句の表記方法については基本的に近江八幡市公文規定に準じております。ただし、すべての人にとって読みやすく、やわらかな印象を持ったものにしたいという思いから、総合教育会議での議論を経て一部の表記方法を改めております。 例えば、「めざす(目指す)」は漢字が二つ並んで固い印象になる点や、ひらがなでもニュアンスを損なわない点からひらがなとしております。	修正なし
	6	8	4	施策3の表現について「いじめ・不登校・問題行動等への…」とあるが、現在の書き方では、不登校もいじめと同じような問題行動の一つであるという誤解を招く恐れがある。「 <u>いじめ・問題行動</u> や <u>不登校</u> への取組や支援の充実」のように修正し、一線を画した表現にしてはどうか。	不登校を「問題行動」と捉える意図はございませんので、表現について修正します。	対応 → <u>不登校</u> や <u>いじめ・問題行動</u> などへの取組や支援の充実
	7	4	19	施策の15についてP4及び概要版とP8の記述が異なっている。「 <u>学習・読書習慣の定着…</u> 」と統一したほうが日本語として自然と考える。	ご意見の趣旨を踏まえ、表現について修正します。	対応 →「 <u>学習・読書習慣の定着</u> 」に統一

受付番号	項目番号	ページ	行目	寄せられたご意見	回答	対応方針
2	8	2	7	趣旨に「これまでの取組の成果と課題や教育現場を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、…」とあるが、どのような「課題」と「社会情勢の変化」があるのか具体的に表記してはどうか。	具体的な内容を列記することは、大まかな方針を示すものであるという教育大綱の性質上ふさわしくないと考えております。 具体的な取組や社会情勢の変化と、そこから見えた課題については現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」に記載します。	修正なし
	9	5	1	ニューノーマル時代における新たな学びに向けて、不透明な未来を切り開く、たくましく生き抜く「強靱な人間力」が必要になる。これまでの基本理念を継承する必要はなく、「レジリエンス教育」「イェナプラン教育」といった次世代の学びにシフトしていく必要がある。それにより近江八幡市の教育が目ざされ、移住者が増え、躍動する元気なまちになることを望む。	基本理念については総合教育会議でも議論し、本市の教育における根幹であり、時代が変わる中でも継承すべきものと考えております。また、ご意見いただいている「強靱な人間力」は大綱に掲げる「生き抜く力」と近似したものと見受けられますので、素案はご意見の趣旨に反するものではないと考えております。 ご提案いただいた次世代の学びについてですが、具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし
	10	8		19の施策に関して取り組む「手段」を具体的に表記してはどうか。	教育大綱は本市の教育の方針やめざす姿を示すものであり、具体的な取組に関しては、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」に記載します。	修正なし
	11	8	2	施策1に関連し、学力・学習状況調査を行い分析・フィードバックを行うPDCAサイクル実施を希望する。	具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし
	12	8	6	施策5に関連し、保育士への外部講師による定期的な勉強会、セミナーの実施により、さらなる質の向上を図り、小学校教育に円滑につなげることを希望する。		
	13	8	6	施策5に関連し、保護者への説明会を年長の夏頃に実施することを希望する。広報や書面だけでは客観的に考える余裕がなく、気づいたら募集の締切を迎えてしまう。		
	14	8	12	施策10について、義務教育9年間を通したキャリア教育指導計画を策定し、キャリア教育を推進されたい。		
	15	8	14	施策11について、滋賀大学・滋賀県立大学などとの連携により、教育現場で活かせるファシリテーション、コーチング、脳科学、認知心理学などの研修を充実させ、教員のスキル向上に取り組まれたい。		
	16	8	16	施策13について、本来必要な教員とこどもたちとのコミュニケーションの時間を増やすため、IT、ICTを活用した業務効率化を図られたい。		
	17	8	10	施策8について、食文化や郷土食についての要素も内包されているものと考えてよいか。		
18	8	10	施策8の「ふるさと学習」に「滋賀習字」は含まれているか。習字は、アートではなく、正しい筆順でとめ、はね、はらいなど正しく整った字を書くことを目的としている。滋賀の習字は（芸術性を重視しすぎていて）他府県には笑われており、度が過ぎて認められない。	教育大綱は本市の教育の方針やめざす姿を示すものであり、個別の教科の指導方針について定めるものではありませんので、施策8の「ふるさと学習」にも具体的な習字の指導方針を含む意図はございません。	修正なし	
19	8	14	施策11について、昨今の教職員を取り巻く環境は、ストレスが多くこころのケアやメンタル・マネジメントが必要。近江八幡市の財産でもある教員を守るための、職場環境づくり、サポート体制、ネットワーク、予防医学的取り組みを希望する。	施策11は教職員の働き方改革やヘルスケア等の要素も含むものではあります。具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし	

交付番号	項目番号	ページ	行目	寄せられたご意見	回答	対応方針
3	20	全体		教育大綱とはこのような性質のものなのかもしれないが、教育大綱に書かれたことは、お題目ばかりの絵に描いた餅の印象があり、教育活動がどのように良くなっていくのかイメージできない。19の施策についても、具体的にどのような方法・予算により実現していくのかわからない。実現可能性に疑問が残る。	ご推察いただいているとおり、教育大綱は本市の教育の方針やめざす姿を示すものです。具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」で記載し、予算に関しては予算の概要などでお示しします。 また、教育大綱は改定して終わりではなく、どれだけ大綱の考えを周知し、大綱に則した取組を行っていくかが重要と考えております。ご意見の趣旨を踏まえながら今後大綱の理念の周知・実現に取り組んでまいります。	修正なし
	21	全体		近江八幡の小中学校は他の地域と比べて子どもたちの学力が低いと感じる。また、地域の教育レベルが低いと感じる。自治体を挙げての底上げが必要。	本市の教育については、「全国学力・学習状況調査」の結果などから現状を分析し、そこから得られた課題について、改善のための取組を実施してまいりますと考えております。 このようなご意見をいただいたことは重く受け止め、今後の教育行政の推進に取り組んでまいります。	修正なし
	22	8	4	中学校での生徒の問題行動への対応が手薄。学校が荒れていて、生徒の学力が保障されていない。	具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし
	23	8	14	教員の資質に激しいばらつきがあり、十分な指導ができていないと思えない。職員の研修や学校間の授業研究がなされていない。		
	24	8	6	小中連携がほとんどなされていない。		
	25	8	7	ICT教育が遅れている。		
	26	全体		学校は問題を中だけで解決しようとしているが、教員のマンパワーにも限界がある。放課後学習・長期休業中の補習・部活指導・ICT支援・学校の見回りなどに積極的に、柔軟に地域人材を活用していただきたい。もっと外部の人材が学校に入って支援しているような体制をつくれませんか。	具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし
27	全体		学校の外の公共施設で、学習意欲はあるが塾に行けない子どもたちの学習を支援できるような場を、行政の力で作っていただきたい。	具体的な取組については、現在策定中の「第2期近江八幡市教育振興基本計画」の取組を検討する段階で、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	修正なし	

○ご意見をいただいた箇所以外での変更箇所

	項目番号	ページ	行目	修正前	修正後	修正理由
	1	2	3	協議・調整した <u>うえで</u> 策定する…	協議・調整した <u>上で</u> 策定する…	近江八幡市公文規定に基づく文言修正
	2	5	12	<u>子どもたちの</u> 基本的な生活習慣の確立をめざし…	<u>子ども</u> の基本的な生活習慣の確立をめざし…	文言の統一
	3	6	5	…まちの将来の創造に <u>繋が</u> ります。	…まちの将来の創造に <u>つな</u> がります。	近江八幡市公文規定に基づく文言修正
	4	6	6	多様で変化の激しい社会を生き抜く力を伸ばす…	多様で変化の激しい社会を「 <u>生き抜く力</u> 」を伸ばす…	文言の統一
	5	8	10	施策8 地域の歴史や伝統・文化を学ぶ、ふるさと学習の推進	施策8 地域の歴史や伝統・文化に学ぶ、ふるさと学習の推進	庁内より、「ふるさとを学ぶ」ということは当たり前のごとで、「ふるさとから学ぶ」主体的な学びにより、ふるさとに対する実感を伴った価値観が生まれるとの意見を受け、検討の上修正。
	6	9	24	用語集「ふるさと学習」の項 <u>地域の自然や歴史、伝統文化などを学び、</u>	用語集「ふるさと学習」の項 <u>地域の自然や歴史、伝統文化などに学び、</u>	項目番号4の修正を受けた文言修正。
	7	9	22 (文言追加)		用語集に 「※5校種間 4ページ <u>幼稚園・保育所(園)・こども園と小学校、小学校と中学校・高等学校など 異なった校種の</u> こと」を追加。 併せて、注釈記号の追加・番号修正。	庁内より、「校種」という言葉はなじみが薄く、進学段階の違いなのか、私立・公立の違いなのか、分かりにくいとの意見を受け、検討の上文言追加。
	8	6	13	また、市民が <u>教育</u> を通じて互いに交流することで…	また、市民が <u>主体的</u> に学び、互いに交流することで…	庁内より、「教育」というと一方的な印象があるが、高め合うために必要なのは主体的な「学び」ではないかとの意見を受け、検討の上修正。
	9	6	8	<u>子どもは、次代の親</u> となります。子どもは、身近な大人としての親を見て育ちます。	<u>子どもは次代の親</u> となります。子どもは、身近な大人としての親を見て育ちます。	庁内より、親とならない生き方を否定するような誤解を与える文章になっているので表現を再検討するべきとの意見を受け、検討の上文言削除。